



障がい者の方のための 夏季パソコン講座開催

CTF 松阪恒例の夏季パソコン講座がはじまりました。

先月は、「パソコンで作って楽しむコース①」として、好きな曲だけを集めて、自分だけのオリジナルCD作りに取り組んでいただき、受講者の皆さんそれぞれのCDを完成されました。

今月は、「パソコンで作って楽しむコース②」として、壁に掛けて使う来年のカレンダーを作っていただきます。

また来月10月1日(月)、15日(月)、22日(月)には、サポート従事者スキルアップ研修会を開催します。日ごろ障がい者の方のITサポートに従事されている会員の方、これからやってみようかと思っておられる会員の方、ぜひご参加ください。お問い合わせと参加申し込みはCTF松阪事務局までお願いします。(参加費1,000円)

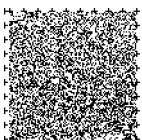


子供が全て就職した一昨年から裏の小さな畑へ野菜を作り始めました。

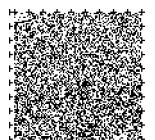
最初の年はサツマイモとカボチャを植えました。肥料もやらず草取りもほとんどしなかったため収穫はあまり芳しくはありませんでした。ただ、量は少なくとも自分が育てた野菜はまた格別な味がします。

今年は、色々な種や苗を購入し、植えてみました。馬鈴薯、薩摩芋、獅子唐、南瓜、茄子、胡瓜、枝豆、大根、トマトです。それぞれ野菜の生長の仕方が異なり、驚くばかりです。例えば、大根は種をまいたらすぐ2葉の芽を出し、暫くそのままです。その後、突然のように葉が何本も出て葉が大きくなります。今度は、俗に首と言われる部分が地面から伸びます。伸びた後、全体的に太くなっていきます。

毎朝、六時に裏の畑へ行き、野菜を眺めています。世話をすればするほど素直に答えてくれます。さて、私の育てている野菜七点の写真を載せますが、皆様はお解りになりますでしょうか？答は最終頁へ掲載します。Y. I



今月号は文字数が多いので、第1ページと第4ページにSPコードを2個付けてあります。第1ページと第4ページでは、先に左下のSPコードを、次に右下のSPコードを読んでください。





感染パターン(3) Web ページを見ただけで感染

特定の Web ページを見るだけでウイルスに感染するケースもある。この手の感染手法にはいくつかの種類があるが 2001 年 9 月に大きな被害を出したウイルス Nimda の手口を例に解説する。

Nimda はコンピュータに感染するとそのコンピュータ内にある Web ページを改ざんしてしまう。つまり公開中の Web サーバーが感染するとそのコンテンツが改ざんされてしまいます。改ざんの内容は実に単純で、以下のような Java スクリプトを Web ページに埋め込むだけである。

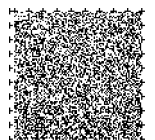
```
<script language="JavaScript">
window.open("readme.eml", null, "resizable=no, top=6000, left=6000")
</script>
```

このスクリプトの意味は「電子メール・ファイルの readme.eml をダウンロードして開きなさい」という非常にシンプルなものですが、IE はこのスクリプトに従って Web サーバーから readme.eml をダウンロードし、window.open 命令によって表示しますが、このウインドウは表示されないのでユーザーは何が起きたのか全く気づかないまま、ウイルスを含んだ HTML メールをダウンロードし、開かせることで感染させてしまうのです。

ここから先は前回の「電子メールを表示/プレビューするだけで感染する仕組み」と同じで、IE に含まれるセキュリティ・ホールを突いて Nimda が Windows に感染するというわけです。

一般的にウイルス対策といえば「セキュリティ・パッチを当てろ」とか「不要なポートをふさげ」などといわれるが、ウイルス感染の仕組みを詳しく知ることによってなぜそのような対策が必要なのか、どこに注意すればよいのかが見えてくるのではないだろうか。

つづく



活動報告

【8月】

障がい者対象個人向けパソコン講座
(7日、21日、28日)

障がい者の方のための夏季パソコン講座
(6日、20日、27日)

訪問ITサポート
(6日、8日、13日(2件)、25日(2件))

松阪七夕まつりIT支援
(4日)



活動予定

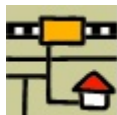
【9月】

障がい者対象個人向けパソコン講座
4日、11日、18日、25日
各9:30~11:30

松阪市障害者福祉センターにて

障がい者の方のための夏季パソコン講座
3日、10日
各9:30~11:30

松阪市障害者福祉センターにて



駅をたずねて

伊勢中川駅

伊勢中川駅は、昭和5年に近鉄の前身である参宮急行電鉄の駅として開業しました。

改札口・コンコースは地下に、5面のプラットホームは地上にあります。東西両口(写真右)から地下道へ降りる際には、エスカレーター・エレベーターとスロープも設置されており、地下改札内と各ホームの間には階段とエレベーターがあります。トイレは、東西両口と地下改札内にあり、車いす、ベビーシート、オストメイト対応などバリアフリー化もされています。

名古屋、大阪の二大都市と観光地伊勢志摩とを結ぶ列車が頻繁に行き交い、また、県内主要都市への通勤にも便利なことなどから、駅周辺は近年都市化が進んでいます。

この中川駅周辺区画整理事業に伴い発掘された、弥生時代の墨書土器は市の文化財に指定され、嬉野考古館に保存・展示されています。



中川駅西口



中川駅東口

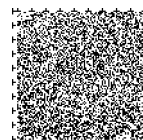
路線名：近鉄大阪線、名古屋線、山田線

所在地：松阪市嬉野中川新町1丁目93

開設年：昭和5年

乗車人員：1日平均3,715人(平成21年度)

出典・平成23年刊三重県統計書



皆さまこのリレー随筆にぜひご投稿をお願いします。
今月は、投稿がなかったので、事務局のH. Oが書きました。

パソコン思い出ばなし

H. O

パソコンと初めて出会ったのは今からおよそ30年余り前のことである。
そのころは、パソコンというよりマイコンと呼ばれていた。マイコンとはマイクロコンピュータの略語であるが、マイ(私の)コンピュータの略語としても通用していた。
NHK教育テレビで「マイコン入門」講座や「たのしいマイコン」講座が放送されていた。
ただこの頃のパソコンは、内部演算処理を8ビット単位で実行する、いわゆる8ビットパソコンであって、ビジネスで使うには性能が低く、多くは個人の趣味として使われていた。
1981年になって、日本最初の16ビットパソコンが三菱電機から発売され、その後NECや富士通からも相次いで16ビットパソコンが発売されるとともに、企業にもパソコンを使った業務の効率化=OA(Office Automation)を進める動きが広まってきた。
当時それらのOA機器を管理する部署に在籍していた私は、PR情報紙を作ったり、出前教室を開催したりしてパソコンの普及に努めていた。OAよりOLのほうが好き！と、今ならセクハラで訴えられそうなことをのたまう御仁も少なからずいた。1人1台のパソコンが貸与され、それぞれがネットワークで繋がっているのが当たり前現在の姿は、想像すらできなかった。
そんなある日、『フロッピーディスクに保存したデータが読み出せない』というサポート依頼の電話があった。そう、フロッピーディスクなんて今となっては絶滅しているが、当時は作ったデータを保存するためのメディアとして活躍していた。
電話では要領を得ないので、『こちらで調べてみるので、コピーして送ってください』と、まあのんびりした対応でよかった。
次の日、郵便で届いた封筒の中を見てびっくり。なんと入っていたのは、フロッピーディスクをゼロックスで複写した紙切れが1枚！
そう、当時はコピーと言えば、書類をゼロックスで複写することだった。ああ・・・

第1面四五百森のクイズの答は ①大根 ②茄子 ③獅子唐 ④南瓜 ⑤枝豆 ⑥胡瓜 ⑦トマト です



編集後記

9月はまだ残暑が厳しく、皆さん体調をくずさないように、くれぐれも注意してくださいね。

下旬になってくると涼しい秋風が吹き、季節の美味しい食べ物も沢山出回ってきます・・・

夜は虫の涼しげな声が響きだします。ちょっと良い季節ですね。



CTF 通信第 114 号

2012年(平成24年)9月発行
発行者 ITを活用した障がい者支援NPO法人

CTF 松阪

発行責任者 川 口 保 美

住 所 〒515-0081

松阪市本町2181-1

電 話 0598-21-7268

U R L <http://ctf.dip.jp/>

